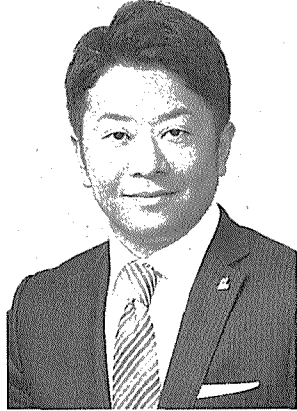


Topに 聞

学生服や体育衣料を企画・販売する菅公学生服。業界トップシェアを争う中、尾崎茂社長は06年の就任以来、一貫して自社ブランドの強化を図ってきた。昨年8月、創業160周年を迎えての社名変更もその一環。培ってきた生産技術や流通機構、営業力などの総合的な企業力を背景に、認知度のさらなる向上で存在感を發揮する。

■ 学生服の業績は、消費増税前の3月に夏物の駆け込み需要があり、反動が少しありましたが、7月決算は計画通り前年をやや上回る見込みです。駆け込みやさまざまな問題がからんで3月は業界全体の流通に混乱が生じま

菅公学生服社長 尾崎茂氏



したが、現在は解消され落ち着いています。

■ 今後は国内生産の充実を図ります。既存の国内工場の生産能力向上、鳥取県に新設予定の新工場や流通基盤の整備など、持続可能な仕組み作りを進めます。

■ 社長に就任した06年当時、「カンコー」ブランドを育て強くなることで、収益性を高め企業体質を改善していくことが、最初に掲げた目標です。当時カンコーの認知度を調査したところ、現在の50代前後ではかなり高かったのですが、ターゲットの10代で低かった

収益性高め企業体質改善

■ 10年に立ち上げたブランドディングプロジェクトは、社内で公募した39人のメンバーで発足しました。予想以上の人数でしたが、思いを持って集結した社員一人ひとりが、社内のいろいろな場面で変化の「火種」になってくれると期待したのです。その成果の一つが社名変更で、当初の私の想定以上に企業のルーツや姿勢、また決意を示すものになったと思っています。

■ また、就任当時から総合職に女性の採用を進めています。現在は女性課長が1人ですが、10年後くらいには部長職も出てくる。その頃には、企業としてもう1段階新しい段階に進めようと思っています。その

■ 均一性や統一感が重視される学生服業界において、展示会では以前から単に新製品を発売するのではなく、学生服を取り巻く世界観も含めて打ち出したことを考えていました。

■ 昨年10月の展示会では内容を一新し、関連企業との協業で新しい学校サポートのコンテンツを提案するソリューションフェアを実施しました。商品についても、学校での統一感の出し方や新技術の提案などに絞りました。学校関係者からは好評をいただき、今年はさらに内容を充実します。提案したコンテンツの事業化も視野に入れています。

■ 学校支援に関しては、ダンス授業の必修化に対応した「カンコーくるくるダンスコンテスト」と、関連した教則DVDの作成など、これまでも取り組んできました。それをさらに進め、学校生活の充実に関与する支援を模索します。

ブランド価値向上に力注ぐ

■ 均一性や統一感が重視される学生服業界において、展示会では以前から単に新製品を発売するのではなく、学生服を取り巻く世界観も含めて打ち出したことを考えていました。